

鳥取労働局長がベストプラクティス企業 「美保テクノス株式会社」 を訪問し意見交換を行いました！

鳥取労働局では、時間外労働の削減をはじめとする働き方改革に積極的に取り組む「ベストプラクティス企業」を労働局長が訪問し、取組事例を収集するとともに、その取組みについて県内の企業に広く紹介しています。

令和5年度は、建設業の「2024年問題」に向けて積極的に取組みを行っている「美保テクノス株式会社（米子市昭和町25番地）」を労働局長（平川雅浩）が訪問し、意見交換を行いました。

※建設業の2024年問題とは：2024年4月から建設業で時間外労働時間数の上限規制が始まることで人手不足や建設費の高騰が懸念されています。時間外労働の上限は、1年で720時間以内、1か月で100時間未満（休日労働含む）、2～6か月の月平均で80時間以内（休日労働含む）等になります。

○事業場訪問の概要

- 1 訪問日 令和5年11月29日（水）
- 2 企業概要【総合建設業】
 - (1) 名称 美保テクノス株式会社
 - (2) 所在地 米子市昭和町25番地
 - (3) 代表者 代表取締役社長 野津 健市
 - (4) 労働者数 224名（令和5年10月1日時点）
 - (5) 事業内容 土木工事の施工、地盤改良工事の調査・設計・施工、建築工事の設計・施工、住宅及びリフォームの設計・施工など



○訪問当日の状況

訪問当日は、野津健市代表取締役社長、宝石豊業務課長にご対応いただき、時間外労働の削減に向けた取組や美保テクノスが注力する人材育成等についてお話を伺い、意見交換を行いました。

また、BIM（Building Information Modelling）導入により、効率的で生産性の高い業務ができることをご説明いただきました。



【野津社長（右）と平川局長（左）】

○主な取組の内容・成果

1 BIM (Building Information Modelling) 導入による設計・施工・維持管理まですべてにわたる業務の効率化 (省力化)

BIMは、計画、調査、設計段階から3次元モデルを導入することにより、その後の施工、維持管理の各段階においても3次元モデルを連携・発展させて事業全体にわたる関係者間の情報共有を容易にし、一連の建設生産・管理システムの効率化・高度化を図ることを目的としている。

それにより、ミスや手戻りの大幅な減少、単純作業の軽減、工程短縮等の施工現場の安全性向上、事業効率及び経済効果に加え、副次的なものとしてよりよいインフラの整備・維持管理による国民生活の向上、建設業界に従事する人のモチベーションアップ、充実感等の心の豊かさの向上が期待される。

2 書類の電子化及びWeb会議システムの導入による効率化

現場と本社がリアルタイムで書類の受け渡しや連絡調整でき、会議室までの移動時間の削減と共に業務の効率化が可能となった。

また、現場の書類作成の一部を本社にて分担し、現場技術者の労働時間削減が可能となった。

3 時間外労働削減に向けた取組等

- ・ 毎週水曜日は全社共通ノー残業デー (社内掲示板で呼びかけ)
- ・ 部下の時間外労働時間数を上席者に開示して業務量調整を実施
- ・ 年次有給休暇の取得状況を全社で共有し、取得を促進

4 健康経営への取り組み

- ・ リフレッシュルームの活用
- ・ 直属の上司以外の上席者による定期面談 (心理的安全に向けた取組)
- ・ 業務に限らず社内の改善提案を受け付ける



【BIMについてご説明いただきました】



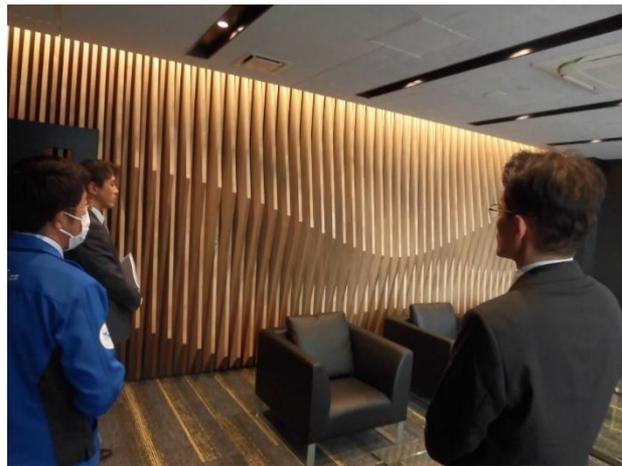
【野津社長】



【社員の休憩場所等に利用されるリフレッシュルームをご案内いただきました】

取組の効果





【BIMで設計された新社屋をご案内いただきました 左：3階通路 真ん中：3F応接室 右：リフレッシュルーム 眺望がよく天気の良い日には大山も見られます】



【左から 宝石業務課長、野津社長、平川労働局長、山埜監督課長（鳥取労働局）】

○訪問を終えて平川局長からのコメント

2024年4月から建設業にも時間外労働の上限規制が適用されるのを前に、美保テクノス株式会社は最新のICTの活用により生産性の向上を図ると同時に、労働時間削減を強く意識した雇用管理に取り組んでおられます。

また、働きやすい職場づくり、計画的な人材育成にも注力されており、これが社員一人一人のモチベーションの向上につながっています。

是非、県内の建設業に従事する皆様にも、同社の取組を参考に、自社の働き方改革を推進していただきますようお願いいたします。